

## よさや可能性を発揮し合い、確かな資質・能力を育む特別活動

### 1 主題設定の理由

「みんなちがって、みんないい」そのような言葉でも形容されるように、人は誰もが、一人一人価値のある存在である。それぞれに、元々もっているよさがあり、大きな可能性を秘めている。そのよさや可能性を認識し、それを発揮することで、私たちは様々なことに挑戦することができるようになるのである。そして、それは多様な他者との出会いや関わりの中でこそ生み出されるものと言える。幼児が無邪気に笑うその先に家族がいるように、落ち込んだときに励ましてくれる仲間がいるように、子供であっても大人であっても、様々なつながりの中でこそ人は生かされるものである。

しかし、今、日本の子供、若者たちは自己肯定感や自尊感情が低く、自らのよさや可能性を認識することが難しくなっているとされている。そこには、画一的な視点でしか評価をしない社会の傾向や、他者との関わりそのものが希薄になっているといった背景が考えられる。また、現代社会においてはコミュニケーションツールがますます利便性の追求に向かい続け、他者との直接の関わりなどなくても成り立ってしまう日常が珍しいものではなくなっている。クリック1回、タップ1回で済んでしまうこと、解決してしまうことが当たり前になってきている現状に、危機感を抱かずにはいられない。

そのような中であって、学校教育が大切にしていけるべきことは、どのようなことなのであろうか。目の前の子供たちが、直接、社会を担う将来のために、今、私たち教師には何が求められているのだろうか。それは、変化する社会に応じて、個性を発揮する力、新たな価値を創造する力、チームで働く力、思いやりや優しさなどを、子供たちに育てていくことである。いかに便利で、いかに発展した世の中になっていったとしても、社会を形成し、生きていくのは人であり、ツールを使うのは人なのである。改めてこの視点に立ち、子供たちにとっての社会である学級・学校において、一人一人が自他のよさや可能性に気付き、発揮し合える活動を通して、確かな資質・能力を育むことが重要である。

新学習指導要領の特別活動の先行実施から2年、本会では、「私」「私たちの学級」「私たちの学校」を主語に、物事を語るができる子供の育成を目指し、育てたい資質・能力を明確にして研究を進めてきた。昨年度は、特別活動ならではの見方・考え方である「集団や社会の形成者としての見方・考え方」について向き合い、見識を深める1年とした。その方法として、子供が見方・考え方を働かせながら活動することができるように具体的な手立てを講じ、実践研究に努めた。その成果として、①実践の中で育てたい資質・能力を明確にし、より具体的な手立てを追究することが、見方・考え方を働かせて活動する子供の姿につながることで、②見方・考え方を働かせて活動する子供の姿そのものが、特別活動における深い学びにつながるということの2点が明らかになった。その一方、課題として、①講じる手立てが、子供たちの集団活動の充実によりつながるような工夫・改善をすること、②子供が自己の成長を実感し、自尊感情等を高めることができるような学びの蓄積を重視することの2点が確認された。

これらを踏まえ、子供に確かな資質・能力を育むためには、一人一人のよさや可能性を、様々な集団活動の中で発揮し合えるようにしていくことが重要であると考えた。そこで、研究主題を「よさや可能性を発揮し合い、確かな資質・能力を育む特別活動」と設定した。

## 2 研究の柱

研究主題に迫るため、次の2点を柱に研究を進めることとした。

- 各校の実態に応じた育成を目指す資質・能力の明確化
- その資質・能力の育成を目指し、一人一人のよさや可能性を發揮し合うための手立て

なお、本会として育成を目指す「確かな資質・能力」については「生活や社会における諸問題を見いだし、多様な他者と協働しながら解決し、自分の人生や社会を拓いていくことのできる力」として捉えていく。この資質・能力は、子供たちにとっての社会である学級・学校を含め、将来歩んでいく社会で生きて働く実践力でなければならない。そして、「よさや可能性を發揮し合う」ためには、適切な教師の指導の下、特別活動で最も重要な特質である自主的、実践的な活動を展開することを中心に、計画的、継続的に実践していくことが不可欠である。その営みは、やがて子供たちに、経験したことのない状況をも乗り越えていける力を育てていく。それはまさに、今、求められている資質・能力であると考えます。

## 3 研究の内容

研究を進めるにあたり、次に示す2つの内容を中心に、専門委員会ごとに研究の視点を設け、それぞれの実践において、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、その育成のための手立てについて研究を深めていく。

### (1) よさや可能性を發揮し合い、確かな資質・能力を育むための指導計画

子供たちの今の実態と将来の姿を見据え、年間や学期、あるいは、各実践の中で、発達の段階に応じた活動を展開していくための指針となる指導計画について研究していく。以下は、そのポイントである。

- ①「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を踏まえた指導計画を作成する。
- ②一人一人が集団の中で役割を果たしたり、活躍したりできるような指導計画を作成する。
- ③学年間・学校間での接合の在り方を考え、学びの蓄積が継続されるような指導計画を作成する。

### (2) よさや可能性を發揮し合い、確かな資質・能力を育むための指導と評価の方法

指導については、集団活動のよさを生かしながらも、事前・本時・事後それぞれの活動における実践上の留意点にも目を向けていく。また、評価については、一人一人の変容を見取るために、自己評価に留まらず、よりよい相互評価の方法にも重点をおいて研究していく。以下は、そのポイントである。

- ①「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を踏まえた指導と評価の在り方を考える。
- ②一人一人が集団の中で役割を果たしたり、活躍したりできるような具体的な手立てを工夫する。
- ③一人一人の変容を見取り、次の実践への意欲を高める個人内評価や多様な評価方法を工夫する。

小学校の新学習指導要領がいよいよ全面実施となった。学習指導要領の前文には「一人一人の児童（生徒）が、よさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し」と謳われている。特別活動は、学習指導要領に定められた願いを直接的に受けており、「よさや可能性」を認識することから發揮することへ、さらに發揮し合うことへと、広げることのできる教育活動である。そして、キャリア教育の要であり、道徳的な実践の場となる特別活動であるからこそ、教育活動全体を見渡し、その不易と流行を見極めた上で実践を展開することが大切である。

学校教育のすべては、子供一人一人の資質・能力の育成のために存在する。私たち教師には、目の前の子供から目を離さず、共に歩んでいくことが何より必要である。本会が主題に掲げた「確かな資質・能力」を子供に育てていくための実践を、今日、そして明日もまた、子供たちと一緒に続けていく。